

平成30年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT30170 プログラム名 災害時子どもにやさしい避難所を考え、みんなで作ってみよう (^-^)



開催日: 平成30年9月15日(土)  
実施機関: 福井医療大学  
(実施場所) 2F 学生サロン  
実施代表者: 河原田 榮子  
(所属・職名) 保健医療学部看護学科・教授  
受講生: 小学生38名、中学生1名  
関連URL: <http://www.f-gh.jp/fhsu/fhsu.html>

### 1. プログラムの目的

災害時には、避難所生活が長期にわたることがある。避難所生活をする上で、特に災害弱者である子どもはストレスによる心理的負担を強く受けることがわかっている。子どもたちが適切な避難環境で、生活や心のケアを受けられると、精神的な問題が起こることを、一定程度予防することができると考えられている。本プログラムは、子どもにとって、やさしい避難所とはどのようなものを仲間同士で考え、具現化することである。やさしい空間とは、遊びや学びの場を作るほか、心や体の健康を維持できるような場所であり、それを本プログラムでは、子どもたちが自ら設計し作り上げる体験をすることが目的である。具体的には、以下の3点を体験できる。

- ①大災害への「備え」の大切さを知る。子ども達が主体的に、避難所における居場所作りができることを学ぶ。
- ②ダンボールなどの身の回りのものを利用して、子どもにとって安心・安全な環境の避難所を作る。
- ③自分たちが工夫した内容を発表し、共有することの意義を学ぶ。

### 2. 研究成果を伝えるために工夫した点

講義の「東日本大震災で被災した看護管理者の体験」の研究を、心と体の病気からの回復過程をイラストのパワーポイントで表した。津波の映像は音響をひかえて2分間ほど流したが、見たくない人は見ないように伝え、不快感の軽減に努めた。災害時における避難場所の環境のイメージ作りのためには、東日本大震災以外に最近の熊本地震・西日本豪雨の様子を写真で見た。さらには、地元の福井豪雨の映像を2分間ほど見ることで、避難所の環境を身近に感じる事ができた。東日本大震災から7年6ヶ月がすぎているので、風化させないために岩手県釜石市の同世代の女子中学生の石碑の言葉や東北地方の標語を紹介し印象づけた。

### 【実施の様子】



写真: 講義の様子

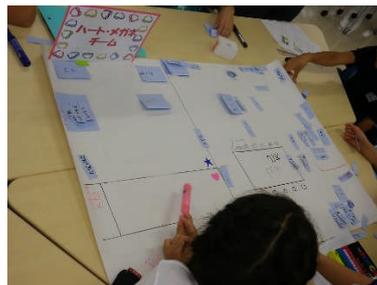


写真: 避難所の設計図を作成しています



写真: ダンボールを工作しています



写真: 避難所の設計図と完成したダンボール作品を発表しています



写真: 完成した避難所でおやつ休憩しています



写真: 未来博士号を授与しています

### 3. 受講生の活発な活動を促すために工夫した点

グループ名は、福井県民が親しんでいる事柄から、「いちほまれ」、「けんけら」、「ガオ・ザウルス」、「ハート・メガネ」、「コスモス」とした。子どもたちのグループ分けには、誰もが新鮮な初めての出会いになるように工夫した。各グループに大学生をファシリテーター役に2名づつ配置した。教員と大学生は、ダンボール工作のための予行演習を2回実施した。シナリオには、大学生のファシリテーターの役割を明確に示した。1大学生の子どもたちの担当者3~4人を1週間前に決め、当日までに子ども達の名前を覚えた。緊張緩和のためのアイスブレーキングを行った。避難所作成の間に、昼食・休憩時間を設け、交流と意見交換の促進を図った。初めてのイベントでもあり、全員の参加者で、大学生の案内役について、大学見学を実施した。各自が作成したダンボール椅子は、お土産としてプレゼントにした。

### 4. 当日のスケジュール

9:30-10:00 受付(集合場所 福井医療大学2階学生サロン)  
10:00-10:10 開校式 挨拶 オリエンテーション 科研費の説明(日本学術振興会;増田俊明研究員)  
10:10-10:25 講義「東日本大震災で被災した看護管理者の体験」の研究から発展させて、災害時における避難場所の環境—子どもたちが心も体も不調にならないために—へ学びをつなげた。(講師:河原田榮子)  
10:25-10:30 休憩(お茶)  
10:30-10:50 演習 アイスブレーキング(緊張緩和と交流を図る軽いゲームで体を動かす)自己紹介  
10:50-11:00 講義 活動に入る前の説明(作業場所・注意事項・道具の使用方法や分配)「子どもにやさしい避難所とは」(講師:河原田榮子)  
11:00-11:40 演習「子どもにやさしい避難所」を考え、設計してみよう  
11:40-12:30 休憩(交流しながら昼食)  
12:30-13:40 演習「子どもにやさしい避難所」を作っちゃおう!  
13:40-13:50 休憩(おやつ)  
13:50-14:10 発表 グループごとに発表しよう  
14:10-14:30 修了式 未来博士号授与(日本学術振興会;増田俊明研究員より受講生に賞状の授与をする)  
14:30-14:35 記念撮影  
14:35-15:00 大学見学(グループごとに、大学内施設の見学)アンケートの記入  
15:00 解散

### 5. 事務局との協力体制

事務局で委託費の管理と支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正を行ってもらった。また、アルバイト学生への謝金支払い手続き、受講生の保険加入手続き、会場の音響機器等の設営、アンケートの集計などの協力を得た。授業に差し支えないように、連絡を密にして、準備・実施できた。

### 6. 広報活動

実施者と事務局が分担して、関係各部署へ本事業のPRを行った。1)福井市役所学校教育課、2)福井市教育委員会の協力を得るための後援申請、3)大学近隣の小中学校を訪問、4)福井市の小中学校、児童館、公民館にポスター掲示の依頼、5)福井市政広報に本事業の掲載の依頼、6)大学のホームページに本事業内容の掲載、7)福井新聞、県民福井、NHK福井放送局、福井放送局、福井テレビ各社に、チラシの投込みを行うなど広報活動をした。

### 7. 安全等への配慮

本学の協力者に、ファシリテーションに関する事前勉強会と予行演習を行った。プログラムの最初にアイスブレーキングを設けて参加者の緊張緩和と交流を図る軽いゲームで体を動かした。また活動に入る前に、作業場所の設定、ダンボール工作時の道具の使い方の説明を行った。怪我なく安全・安心に工作するために、参加者全員がダンボール工作の基本となるダンボール椅子1脚を作成した。受講生、実施者、学生アルバイトは、レクリエーション保険に加入した。活動中に体調を崩してしまった場合には、大学の保健室で休憩できるようにした。無理なく活動するために、気分が悪くなったときには、途中でも休息を取れるようにした。なお当日は、不慮の事故等は、起こらなかった。

### 8. 今後の課題

参加者募集人数が定員割れの状況であり、再追加募集を締切後、1)大学のホームページに再募集の掲載、2)大学近隣の小中学校の訪問、3)実習病院の職員への再募集等を約2週間行った。その結果39名の参加者になった。今後は近隣地域のイベントや小中学校の行事の精査と今回のアンケート結果を活用して、次回の開催日時の検討をしたい。講義の「災害時における避難場所の環境」については、参加者の多数が小学生であり、内容が難しかったと感じた。そのため災害による心体への不調や備えが必要な理由を、参加者の子どもの目線での意見交換が不十分であったと思った。次回は、参加者の子ども達の考える時間をもっと確保し、意見交換に繋げたい。大学の実施者・協力者は、私服よりは、統一された大学のTシャツなどの服装のほうが、役割がわかりやすい。受講者のアンケート結果からは、概ね肯定的な感想であり、次回への開催要望への意見も強く感じるので、上記の課題解決の対応を検討して、再度ひらめき応募への挑戦を試みたい。

#### 【実施分担者】

中村 陽子 保健医療学部看護学科・教授

青井 利哉 保健医療学部看護学科・講師

【実施協力者】 11名

#### 【事務担当者】

岩永 和也 事務室長

斉藤 静美 事務課